

軍事・歴史・政治・経済研究紙

MONTHLY DAITOH-NEWS

本紙の年間購読は本体3,000円+税です。

中国共産党はレーニンの諺に「とて頭が一杯である。家庭は核家族化し、親への孝を忘れ、真剣に自国の政治的ビジョンを考えた。国家の方針を自分の目で確かめようとはしない。兎小屋のようなマイホームに細やかな倅を求め、その小さな集団以外に目を向けよう」としてない。毎日満員電車で揺られ、それに不満も漏らさず、ひたすら忍従し、何事にも沈黙を保つことを由としている。

彼等の話題は、野球はどのチームが勝ったか、サッカーはどのチームが勝ったか、あるいはゴルフや、大ローンで買った車の話ばかりである。国家が破綻寸前であるにもかかわらず、会社のために働いて資本家に搾取され、五〇%近い重税によって政府から搾取され、それでも反抗の牙を剥かず、自分達だけの小さな倅に執着し、金の奴隷に成り下がっている。

これこそ我が共産党が待望した、日本崩壊のシナリオである。

おおよそこんな感想を持ちながら、日本人気質を侮蔑して行くことである。

北京以外の地方の治安状態
中国は「文化大革命」によって、人民の生活難は益々大きくなっていった。

文化大革命は、毛沢東の権力闘争のうちで大きな頂点を来し、その破壊の嵐は中国全土に波及した。特に、鉱山などがある山東省は困窮者が多く、一部の管分子(恐喝、

中国共産党はレーニンの諺に「とて頭が一杯である。家庭は核家族化し、親への孝を忘れ、真剣に自国の政治的ビジョンを考えた。国家の方針を自分の目で確かめようとはしない。兎小屋のようなマイホームに細やかな倅を求め、その小さな集団以外に目を向けよう」としてない。毎日満員電車で揺られ、それに不満も漏らさず、ひたすら忍従し、何事にも沈黙を保つことを由としている。

彼等の話題は、野球はどのチームが勝ったか、サッカーはどのチームが勝ったか、あるいはゴルフや、大ローンで買った車の話ばかりである。国家が破綻寸前であるにもかかわらず、会社のために働いて資本家に搾取され、五〇%近い重税によって政府から搾取され、それでも反抗の牙を剥かず、自分達だけの小さな倅に執着し、金の奴隷に成り下がっている。

これこそ我が共産党が待望した、日本崩壊のシナリオである。

おおよそこんな感想を持ちながら、日本人気質を侮蔑して行くことである。

北京以外の地方の治安状態
中国は「文化大革命」によって、人民の生活難は益々大きくなっていった。

文化大革命は、毛沢東の権力闘争のうちで大きな頂点を来し、その破壊の嵐は中国全土に波及した。特に、鉱山などがある山東省は困窮者が多く、一部の管分子(恐喝、

社会主義革命は人民搾取の方便だった!

「一を以て十にあたり、十を以て一にあたり」という軍事的戦略法は、「孫子の兵法論」から学んだものであった。敵が弱ければ多数で袋叩きにし、強ければ戦わず、迂回してこれを回避するか、遠巻きにするのである。

今、中国は日本の政治家を総じてこつ表現している。「強者(アメリカ)に媚びを売り、弱者(東南アジア諸国の発展途上国)を見くびり、北京政府の独裁者に金を貢ぐだけの三流政治家しか選ぶこと出来ない日本人は、まさに経済動物(金銭至上主義者)以外の何ものでもない」と。

そして最後にこつ付け加える。「多くの日本人は、自分達のこ

窃盗、強姦、暴行の、直接政治犯とは関わりがない無法者ら)は盗賊化した。

この盗賊集団は金品や衣服を奪うだけでなく、婦女子には強姦し、最後は顔を見られたという理由で、十中八九殺すのが常だった。

奪い、犯し、そして殺して自殺に見せかける。死体は間違いなく頸に縄が巻かれ、樹木にぶら下げられるという殺害法であった。

そして公安当局はこうした殺人事件が発生しても、科学捜査が幼稚なためにこれを徹底的に捜査せず、更には公安員自身が自分達の

仕事の面倒を省くために、捜査を有耶無耶にするというのが常だった。

これは政治犯や反革命分子によって、国家を脅かす程度のものでないからだ。こうした民間で起こる窃盗や麻薬常用や強姦事件などは、現体制側にも異常なまでに、また政権にも異常なまでに、いたる有耶無耶にするというのが公安当局の方針である。

しかしこうした肉親を殺された者達は直接北京に向き、直訴するという者が殖え始めた。

そこで公安当局は、こうした地方からの直訴や陳情を苦々しく思

聖地に絡む宗教戦争

(その四十一) 米国イオンド大学教授 曾川和翁

悪しき事をするから神が予定しないのである。神が予定しないから、選ばれし者以外は悪しき事をする人となり、悪人となる。したがって神は悪人を救済しない。この根本思想こそ、《予定説》であり、此処にキリスト教の教義は存在する。

パウロの「ローマ人への手紙」(第三章10〜12)には、



イスラエル軍に破壊されたパレスチナ人の家屋

パウロの「ローマ人への手紙」(第三章10〜12)には、

「人間は罪人である。人間は一人も居ない」と。

「総ての人間は罪人であって、例外は一人も居ない」と。これこそがキリスト教の人間を觀する「人間觀」である。キリスト教の人間觀は、この一点に絞られ、《予定説》が公然と掲げられている。

次の一節の駄目押しを認識すれば、《予定説》の存在について、誰も異論の余地が狭めなくなる。

「義人はいない、一人もいない。悟る者がいない、神を求めない。みな腐り果てた。善を行う者はいない。一人もいない」とある。この箇所は日本では「善

は、一人の売春婦の姦淫にはじまる。イエスはモーセに法律における命令をどのように解釈したか。ここに「ローマ人への手紙」の重要な意味は含まれている。

モーセの「姦淫するな」という命令を、イエスは次のように追言し、解釈した。

「だが私は云う、色情をもつて女を見れば、その人はもう心の中で姦淫している」(『マテオ』による福音書 第五章28)

これは有名な句であり、これこそキリスト教を世界の三大宗教に押し上げる革命的重要性を持つていたのである。

モーセの法律において「姦淫するな」とは、表面的な行動律にとどまるものであったが、イエスは人間の外的かつ表面的な行動律を心の裡側まで持ち込み、これを厳しく指摘したのである。キリスト教が、外的な行動規範から抜け出して、内面的な心情規範に大転換したのは、まさに革命的であった。

さて、イエスは「淫姦」と云う人間の罪を如何に罰したか。律法学者とフアリサイ人達は、姦淫の現行犯として逮捕した女に、イエスに向かってこのように問いかけた。

「先生、この女は姦淫の最中に捕まった者です。モーセはこう云う者を石殺し(石打ち刑)にせよと律法で命じていますか」(『ヨハネ』による福音書 第八章4、5)

モーセは法律の中で、姦淫した女は石打ちで殺せと命じている。この法律を持ちだせば、イエスをジレンマに陥れる意図は明白である。 つづく

人なし、一人だになし、善をなす者なし、一人だになし」の件で有名である。

これは、人間は罪人であるから、もし善行によって人間が救われるとすれば、救われる人間など誰一人いない事になる。

では、本当に救われる人はいないのか。否、いるのである。

それは誰か。それは予め神が予定した「選ばれし者」なのである。神は予定した人々を救済し、彼等に善行をなさしめるのである。

「ローマ人の手紙」第八章によれば、「また予定された人々を召し出し、召し出された人々を義とし、義とした人々に栄光を与えられた」とある。

《予定説》に至るその経緯は、一人の売春婦の姦淫にはじまる。イエスはモーセに法律における命令をどのように解釈したか。ここに「ローマ人への手紙」の重要な意味は含まれている。

歴史を工学的に科学する

〒802-0985
北九州市小倉南区志井6丁目11-13
(尚道館ビル2F)

九州科学技術研究所

093(962)7802 FAX093(961)8224
Eメール: science@daitouryu.com



九州科学技術研究所

Kyushu technology Institute

九州科学技術研究所 URL

http://www3.ocn.ne.jp/saigouha/

大東流霊的食養道HP

www.daitouryu.com/syokuyou/

癒しの杜の会HP

www.daitouryu.com/iyashi/